

# アドバイザーの先生から

「シブパネル」は、専門知識をもつアドバイザーの先生方のご助言をいただきながら、みんなでつくりあげています。ここでは、アドバイザーの先生方にそれぞれの立場からシブパネルの意義や注意点について教えていただきました。

## きょうだいの安心のために必要なこと

(明星大学人文学部福祉実践学科教授 吉川かおり先生)

きょうだいが安心を感じることができるとき、それはどのような時でしょうか。

一つには、自分の人となりや人生を受け入れてもらったとき、もう一つは、自分に影響を与えた「親や障害児者」についての体験や気持ちや考えを含めたあれこれを、共感的に聞いてもらえたとき、ではないかと考えます。

パネラーとなるきょうだいにとっての安心を、最初はスタッフ・モデレーター・パネラーの間で作出し、さらにシブパネルという場では聴衆も巻き込んで作り出すこと。そのためには、モデレーターや聴衆が担う役割にも目を向ける必要があります。

加えて大切なことは、障害児者にとっての「障害」の位置づけと同様に、きょうだいにとっても「障害児者との暮らし」がその人の全てではない、という点です。障害児者にとって、(心身機能の)障害はその人の一部ではありますが、全てではありません。きょうだいにとっても、障害児者のいる家庭で育ったということは、その人を作っている要素の一部であって、その意味づけは人によって異なるのだということを、関係する者たちが理解していること(もしくは理解できるようになること)が求められます。

シブパネルという場は、パネラーの話を媒介として、パネラー自身と各聴衆、モデレーターとが交流する場でもあります。言語的なものだけでなく、非言語的なコミュニケーションも含めて、伝えてよかった・聞いてよかったと思える交流を生み出していくこと、それこそが「きょうだいにとっての安心」につながる道でありましょう。

## 米国シブリングパネルの注意点について

「シブパネル」は、米国きょうだい支援プロジェクトが「シブショップ」のファシリテーターを育成するトレーニング内で行っている、大人のきょうだいによる“Panel of Adult Siblings”を参考に開発しています。「シブショップ」はシブリング(きょうだい)のためのワークショップという意味の造語で、主に8歳から13歳までの、特別なニーズのある子どものきょうだいを対象にした支援プログラムです。

(きょうだい支援を広める会 有馬靖子さん)

1) 聴衆のきょうだい支援に関する基礎知識の有無を確認する。  
米国ではシブショップのファシリテーターを育成するための2日間トレーニングの一部として大人のきょうだいによるパネルを行い、トレーニングは下記のスケジュールで行われます。

### 【1日目】

- 1) きょうだいの持ちうる悩みと人間的成長の可能性に関する講義を3時間
- 2) 大人のきょうだいによるパネルを1時間30分
- 3) シブショップの始め方を45分

### 【2日目】

- 4) デモンストレーション・シブショップの説明を1時間
- 5) デモンストレーション・シブショップを4時間
- 6) 振り返りと地域でのシブショップの企画準備を1時間

つまり、パネルの聴衆はきょうだい支援の基礎知識を得たうえで、大人のきょうだいの話を聴くという設定です。ですから、シブパネルを単独で企画する際には、聴衆としてきょうだい支援の基礎知識がない方も受け入れるのか、慎重に検討します。聴衆がどのような方たちかは、パネリストの安心安全に関わってくるからです。

2) 様々な立場のきょうだいにパネリストをお願いする。

シブパネル企画の際には、まず国語辞典でパネルディスカッションの意味を確認してください。シブパネルは通常のパネルディスカッションとは異なり、議論・討論を目的にしていませんが、異なる意見・経験をもつ方々に登壇してもらうということに関しては同じで、ここはとても大切なポイントになります。きょうだいとしてよかったことなんて1つもなかったという人から、よいことしかないという人まで、私たちは様々な経験を学ぶ必要があるからです。

3) アウティングに注意する。

シブパネルで経験や気持ちを話したからといって、パネリストはすべての場面でこれらのことをオープンにするわけではありません。アウティング(本人の了解を得ずに、他の人に公にしていな秘密のことを暴露する行動)が起きないように、しつこいぐらいに聴衆に注意喚起する必要があります。